

## 最近の活動状況

### 1. 恒例行事「SPCふれあい懇談会」を開催

本年2月11日に新年会を兼ねて開催し、出席した仙台フィル指揮者・山下一史氏、仙台フィル楽員有志、SPC会員の三者が、仙台フィルの更なる発展のため、互いに一層努力する事を誓い合った。

### 2. “5・5（ゴーゴー）キャンペーン”への協力

このキャンペーンは、定期・オープン・賛助の各会員増を目的に、本年3月から4月にかけて仙台フィルが実施したもので、「5・5（ゴーゴー）」とは、定期会員数を両日とも500人——計1000人に、という目標の象徴。SPCは「指揮者、オーケストラ、聴衆が一つの空間と時間を共有してこそ得られる生演奏の感動と喜びを、もっと多くの人々と共に味わい、分かち合い、より大きな力で仙台フィルの更なる成長と前進を後押しして行きたい」との思いを込めて熱烈に協力し、顕著な成果を上げた。また、SPCも団体として「賛助会員」に登録した。

### 3. 「SPC茶話会」を開始

SPCの設立動機の一つでもあった「仙台フィル定期終演後、聴衆同士が自由に感想を述べ合うなどしてコンサートの余韻を楽しむ」を目的に、本年5月から青年文化センター内カフェレストラン“ウィーンの森”を会場として開始。SPC会員のみならず、仙台フィル楽員有志や山響ファンクラブ会員の飛び入り参加などもあって好評実施中。内、7月の「第3回」を「特別拡大版“ビアパーティー”」として、仙台フィル指揮者・山下一史氏をゲストにビール飲み放題で実施。氏の貴重なお話を伺いながら大いに語り合い、親睦を深めた。

### 4. 会報『PHILHARMONY CLUB』とその号外『SPC通信』を継続発行

双方とも、1995年の創刊以来中断なく発行し、本年11月現在、会報がVol.41（年3回発行）に、通信がVol.148（毎定期発行）に達した。

特に、『PHILHARMONY CLUB』では、02年のVol.23より、新音楽ホール建設の必要性を啓発する「音楽堂問題を考える」シリーズを連載し、毎号、仙台市議会の全議員に配布している。また06年のVol.35より「お隣さん情報」のコーナーを開設し、友好団体である山響及び山響ファンクラブの動静を伝えている。

なお、両刊行物とも06年12月より、創刊号から最新号までの全号が「宮城県図書館みやぎ資料室」に収蔵され、常時閲覧可能となっている。

### 5. 今後の予定。

「第17回SPCおもしろセミナー」を09年1月17日に開催するべく準備中。仙台フィル・トロンボーン奏者の菊池公佑氏を講師に招き、演奏を挟みながら楽器にまつわるお話を頂く予定。

## その他、ファンクラブ活動でアピールしたい事など

SPCは聴衆が自発的に立ち上げた“勝手連”的組織であり、1995年の発足時から今日に至るまで、自主独立の精神で息長く活動して来た。近年では社会的認知度も高まり、期待される場面も多くなって来ているが、それに応えるため「いかにしてクラブ自体の体制を強化し、仙台フィルとの関係を良好に保って行くか」が日頃最も心を砕く所であり、今後の課題でもある。